

令和4年11月16日

瀬戸市議会議長 水野良一様

氏名 瀬戸子ども笑顔の会

代表

住所 瀬戸市

連絡先

子どものマスク着用に関するポスター掲示等による啓発を求める陳情
《子どもたちがマスク着用の有無に関わらず互いを認め、尊重し合える瀬戸市へ》

1. 陳情趣旨

2020年の新型コロナウイルスの流行から、感染症対策と共にある学校生活、園生活が始まり、まもなく3年が経過しようとしております。マスク着用は感染症対策の一つとして定着しておりますが、子どもたちの中には、持病等でマスクをしないと不安になる子どもがいる一方で、マスクをすると苦しくなり体調を崩してしまう子ども、表情が見えないことで不安になってしまう子どもなど、様々な事情でマスクを着用出来ない・しない子どもたちがおります。

「瀬戸子ども笑顔の会」は、本年5月、こうした様々な事情を持つ子どもたちへの理解を求める市内の保護者を中心に発足しました。以来、困りごとを抱えている子ども達や保護者の声を学校・園や瀬戸市へと伝え、その結果として

- ・「マスクをつけられません」カード、缶バッジの作成（社会福祉課）
- ・瀬戸市のホームページへの記載（シティプロモーション課）
- ・校長会・教頭会での口頭による周知（教育課）
- ・「学校だより」に一文を記載（市内の小学校）

といった形で各方面からのご尽力をいただきました。社会全体での理解を得るための取り組みに、心より感謝申し上げます。

しかしながら、子どもたちの学校生活においては今なお認識の差があり、マスク着用の有無で子どもたちが傷つく事例が発生しております。

当会に寄せられた事例（資料1）から例を挙げますと、小学1年生の児童が、授業中に息苦しさを感じてマスクを外していたところ、担任からクラスメイトの前で注意をされ、児童本人が「息苦しい」と訴えても「ルールだから」「みんな我慢しているから」と着用を促されるという事例がありました。

また、頻繁に寄せられる声として、子ども同士によるマスクの声掛け（「ちゃんとマスクしろ」「マスクをしないとコロナになるぞ」等）がありますが、これにつきましても、子どもたちが真摯に感染症対策に取り組んでいるからこそその発言である場合もあります。



瀬戸市議会
瀬戸 陳

上記のような背景から、子どもたちや教職員へより広く周知し根気よく伝えていく手段として、当会ではポスター（資料2）を用意し、市内の小中学校・園に対し校内・園内への掲示を求め、足を運んでお願いをしているところです。尚、この掲示による啓発につきましては、教育課へ事前に確認の上で行っております。

この「マスクする子もしない子も共に理解し、尊重し合おう」というポスターには次のようなメッセージが書かれております。

《僕たち、私たちは、ひとりひとりが違う個性を持っています。国語が得意な子、体育が得意な子、体が丈夫な子、心が繊細な子など、みんな違ってみんな良い。マスク着用についても一緒。風邪の予防のためにマスクをする子、反対に病気や体質などの健康上の理由で、マスクをしない子・できない子もいます。》

マスクをする子もしない子もお互い理解し、尊重し合って、いじめや差別、偏見のない、みんなが仲良く笑顔で楽しく過ごせる園・学校生活を作っていこう！
マスクする子もしない子も平等に》

このような意図・趣旨に関しては、瀬戸市の掲げる「子どもにやさしいまちづくり」や、本年10月より施行の「瀬戸市子どもの権利条例（資料3）」に沿ったものであり、また厚生労働省（資料4）や文部科学省（資料5）からの発信においても触れられております。

現在、市内のいくつかの小中学校・園において当ポスターを掲示してもらっておりますが（資料6）残念ながら当会だけでは、全校・園へ十分な啓発を行うことができません。

同様の趣旨のポスターは、他の自治体においても作成、掲示されております。（資料7）

瀬戸市におきましても、ぜひ同様の啓発を学校・園のみならず、市内全体に広げることにより、瀬戸市・瀬戸市議会からのメッセージとして、地域全体で子どもを守ることに繋げていただきたいことから、陳情致しました。

尚、当会は、様々な事情によりマスクをしない・出来ない子どもへの理解を求めておりますが、決して感染症対策を軽んじている訳ではありません。また「全ての子どもにマスクを外してもらいたい」という活動ではありません。本人の意に反して、マスクの着脱が強要されることがあってはならないと考えております。

2. 陳情事項

(1) 子どもたちがマスク着用の有無に関わらず互いを認め尊重し合えるように、市として、庁内の各窓口、ポスターの掲示・配布等による周知、啓発を行って頂くようお願い致します。

3. 参考資料

・資料1 当会に寄せられた、マスク着用に関連する困りごとや事例（一部抜粋）※別紙（1）

・資料2 ポスター（実物）※別紙（2）

・資料3 瀬戸市子どもの権利条例

<http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2022092800014/files/kodomonokenrijourei.pdf>

第3条 子どもは、安全に安心して生きるため、次に掲げる権利が守られなければならない。

(5) あらゆる差別を受けないこと。

第4条 子どもは、自分らしく生きるため、次に掲げる権利が守られなければならない。

(1) 自分の存在を認められ、尊重されること。

(2) 自分で自分のことを決めること。

第5条 子どもは、自分に関わることに主体的に参加するため、次に掲げる権利が守られなければならない。

(1) 意見を表明する機会が与えられること。

(2) 自分の意見が尊重されること。

・資料4 厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針

「本人の意に反して、マスクの着用を無理強いする事がないよう丁寧に周知する」

https://corona.go.jp/expert-meeting/pdf/kihon_r_20220523.pdf（令和4年5月23日通達）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001001581.pdf>（令和4年10月14日通達）

・資料5 文部科学省

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル・別添付資料（P.30）

https://www.mext.go.jp/content/20220404-mxt_kouhou01-000004520_02.pdf

「見えないウイルスへの不安から、特定の対象(※1)を嫌悪の対象としてしまうことで、差別や偏見が起こること。

※1・感染症が広がっている地域に住んでいる人・咳をしている人・マスクをしていない人

・外国から来た人・ワクチンを接種していない人、接種できない人」

・資料6 市内小学校における校内へのポスター掲示風景 ※別紙（3）

・資料7 他の自治体のポスター例 ※別紙（4）

別紙（1）当会に寄せられた、マスク着用に関連する困りごとや事例の一部を紹介します。

- ◆母親が屋外でマスクを外していたら、子どもが「おかあさんが、誰かに怒られたら怖いからマスクを着けてほしい」と泣き出した。（子どもは屋外で一人の時もマスクを決して外さない。）
- ◆高学年女子。マスクを外した際に、クラスメイトが顔を見て笑ったので、マスクを外したくなくなった。
- ◆小学2年生男児。マスクを外していたら、教室で友達に「マスクしろ」「マスクして」「マスクしないとコロナになるぞ」と言われた。
- ◆小2女子。登校中にマスクを外していたら、高学年男子から「マスクして」と言われてこわかった。
- ◆中学生女子。マスクを外していたら友達に「顔に自信があるんだね～」と言われた。もうみんなマスクを外していない。
- ◆小3小4兄弟。息苦しくなるのでマスクを外して登下校をしていた。兄弟間で少し喋るだけで、高学年男子から「マスクしろよ!」「マスクしないなら話すな!」と怒鳴られるので、マスクを外せなくなった。帰宅後に頭痛や熱中症の症状が見られる日もあった。
- ◆小6男児。マスクをしないで喋ると「コロナ菌うつるー」「マスクしろよー」と囁し立ててからかわれる。
- ◆小学生。運動場での体育で、先生が「走る人はマスク取ってー。待ってる人はマスクしてねー」と言う。走り終わって、苦しくてもマスクを外しづらい。
- ◆小学校高学年。「話すならマスクをきなさい」とよく言われるし、書いてあるけど、弟は（※事情があつて）マスクが出来ない。1日中、ずっと喋るなって意味なのかなあと思う。
- ◆習い事（そろばん）でマスクを取っていると、先生に必ず「マスクしてねー」と言われる。しゃべっていないのに。
- ◆スイミング教室。更衣室で子どもたちが「マスクしろー！着替えの時はからなずマスク!」とスタッフに大声で怒鳴られていた。
- ◆小学生。下校中にマスクを外していたら他の子から「コロナがうつる～」と言われ、離れられる。
- ◆保育園児。健康上の理由から、保護者が園に相談し、マスクを着けずに過ごしている。先生や友達からよく「〇〇ちゃんと〇〇くんは、マスクしなくてもいいんだよ」と、マスクを外していることが特別のような言い方をされるのがとてもイヤだ。
- ◆中学生。あちこちに「マスクをしよう」と貼り紙がされていて、外したいときも外しづらい。
- ◆小学生。運動会で、自分の競技ではない時は運動場でもマスクをするように先生に言われる。「マスクをしたら大きな声で応援してもいいよ」と言われたので、マスクをして応援した。
- ◆中学生。息が苦しいし暑いから鼻を出してマスクをしていると、クラスメイトから「鼻までマスクをしろよ」とすぐ注意される。
- ◆高3女子。全員がマスクしているので外せない。「マスクして入学してからもうすぐ卒業なんですけど、実は21人いるクラスの子の6人しか顔を知らずに卒業することになります...こんな世の中ではいけないと思いました。小さい子たちは早く学校生活を楽しめるようになってほしいです。」

...など、保育園児から高校生まで、さまざまな年齢や性別の子どもたち、また学校内だけでなく、登下校や習い事など、日常生活全般において、マスク着用に関する”声”が寄せられております。

マスクする子も しない子も

りか い そん ちよう

ともに理解し、尊重し合おう



僕たち、私たちは、ひとりひとりが違う個性を持っています。

国語が得意な子、体育が得意な子、体が丈夫な子、心が繊細な子など、みんな違ってみんな良い！

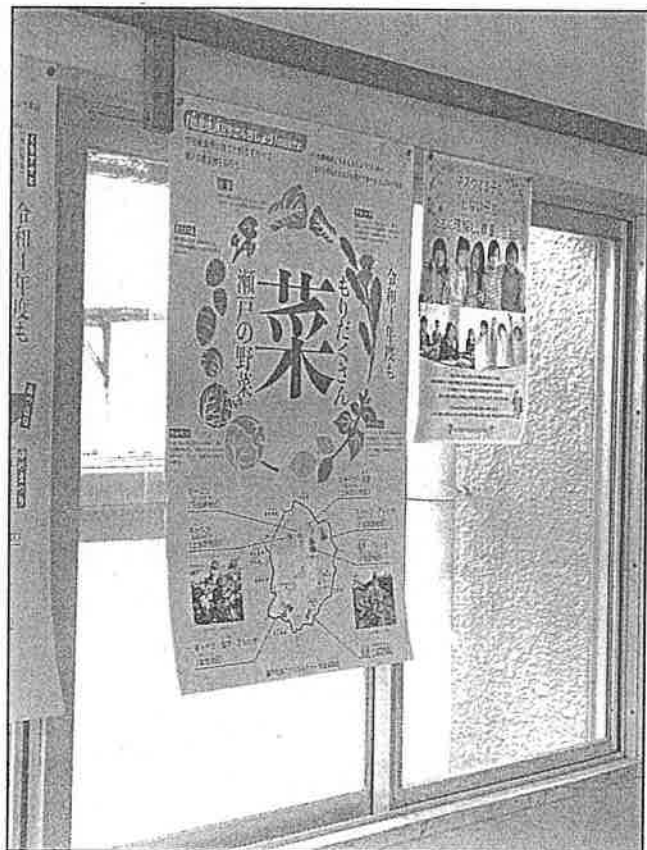
マスク着用についても一緒。風邪の予防のためにマスクをする子、
反対に病気や体質などの健康上の理由で、マスクをしない子・できない子もいます。

マスクをする子もしない子もお互い理解し、尊重し合って、
いじめや差別、偏見のない、みんなが仲良く笑顔で楽しく過ごせる園・学校生活を作っていこう！



✦  マスクする子もしない子も平等に  ✦

別紙（3）市内小学校における校内へのポスター掲示風景



別紙（４）他の自治体のポスター例

新潟市

マスクをしていないことで
差別や嫌がらせをしては絶対ダメ！

STOP
マスク差別

守ってほしい、大切なこと

興奮などによりマスクを無理につけることで、具合が悪くなってしまふひとがいます。そのことで周りのひとから悪く言われたり、いじめられたりすることがあってはいけません。また、暑い日に外でマスクをすることで暑中ぼやになってしまふことがあります。外で周りのひとと十分な距離をとれるときはマスクを外しましょう。

いじめで困ったり、
ともだちのことで
不安や悩みがあったりしたら……

子どものSOSの相談窓口
24時間子どもSOSダイヤル(通話無料)
☎ 0120-0-78310

みんなでできること
みんなの力で
安心安全なまちを
つくろう

新潟市

マスクをしていないことでの
差別や嫌がらせは絶対ダメ！

STOP
マスク差別

毎日の生活には、マスクも当たり前になることにより差別や嫌がらせを受ける人が増えることが心配されています。そのことにより、差別や嫌がらせを受ける人が増えることが心配されています。また、興奮や暑さなどにより無理にマスクを着用すると具合が悪くなる人もいます。暑中ぼやなど、暑い日に外でマスクをすることで暑中ぼやになってしまふことがあります。外で周りのひとと十分な距離をとれるときはマスクを外しましょう。

その人の特性やおかれた状況を理解し、差別的な行動をすることなく
お互いに思いやりの心を持って過ごしましょう。

もし、新型コロナウイルス感染症に
関連する差別や嫌がらせ等の
被害に遭ったら……

人権相談窓口(法務省人権擁護機関) 回った時は一人で悩まず、ご相談ください。
人権相談を受け付けています。

みんなの人権110番 ☎ 0570-003-110 (平日 8:30-17:15)

子どもの人権110番 ☎ 0120-007-110 (平日 8:30-17:15)

<新潟市：STOPマスク差別 >

<https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/jinken/jinkenkatsudo/jinken-osirase/coronavirus-jinken.html>

マスクをつけていない方への
ご理解をお願いします

■マスクをつけたくても、つけられない方がいます

新型コロナウイルスの感染症の感染防止のため、「マスクの着用」が推奨されていますが、マスクをつけたくてもつけられない方がいます。

発達障がい、感覚過敏、皮膚の病気、呼吸器の病気など、様々な理由でマスクをつけると気分が悪くなったり、目に痛みを感じたり、体に異常を感じてしまう方がいます。

周囲からは、わがままと誤解されたり、厳しい視線を向けられたり、心無い批判を受けることもあります。

■「マスク着用」の考え方(※)は変わりつつあります

国においては、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、適宜「マスク着用の考え方」の見直しが行われています。

この中で「マスクを必要としない場合」や「児童のマスク着用の考え方」等が示されていますが、実際にマスクを外そうとしても、「迷惑に思われないか」と考えたり、ほかの人の視線が気になって、「外しにくい」と感じる場合があります。

■社会全体の理解が必要です

マスクをつけていない方がいたとしても、障がいや症状等がある「マスクをつけられない」という個人の事情があることや、状況や年齢によっては「マスクを必要としない場合」があることを理解していただき、お互いに思いやりの心を持って過ごしましょう。

※「マスクの着用について」
(外部サイト(厚生労働省HP)へリンク)

徳島県

<徳島県：マスクを着けていない方への理解啓発>

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokat/kurashi/jinken/5047519/>

マスクができない子
もいるよ！

飯塚市教育委員会

まわりにマスクをしていない子がいたら、「マスクをせなかんよ！」と言う前に、「なんであの子はマスクをしてないんやろ？」と考えてみよう。

マスクをすると、鼻が痛くなる、めまいがする、顔がはれてひりひりする、息が苦しくなる、気持ちが悪くなる、といった理由でマスクをつけられない子がいます。

マスクをすると、鼻が痛い、息が苦しくなる、そんなときは一人でがんばしないで、学校の先生やお家の人に相談してください。

マスクができる子もいれば、できない子もいるよ。一人一人の個性を理解して、みんな仲良くできよう！

保護者・地域の皆様へ

マスクが感染予防対策として定着している中で、感覚過敏、皮膚の病気、呼吸器の病気といった様々な理由で、マスクの着用が困難な子どもたちがいます。マスクを着用できない子どもたちに対して差別や偏見が生じることを避けたい。見守りをお願いします。

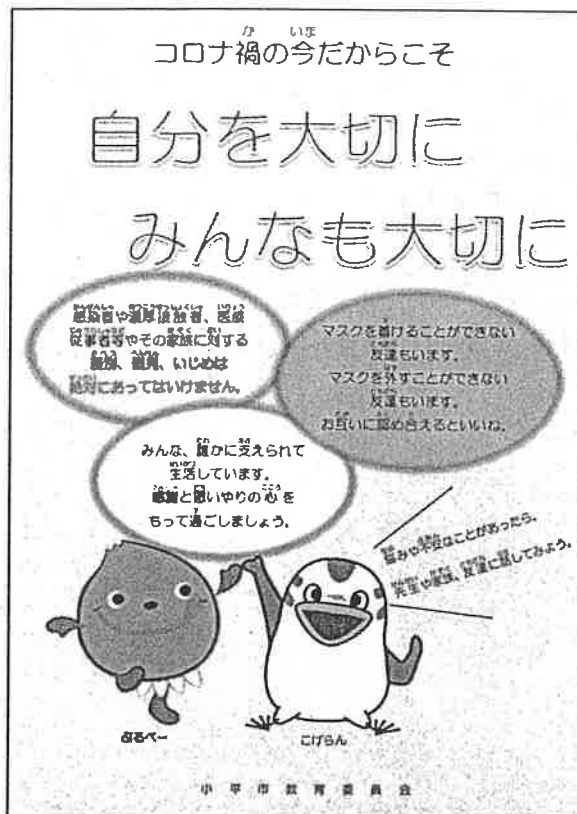
また、お子さまが上記の理由等でマスクを着用できない場合は、学校に相談して所定の用紙でお知らせください。用紙は学校で準備しています。用紙は下のQRコードからもダウンロードできます。

発達障害クラブを開設されている方は、学校が用紙を発達クラブと共有しますので、提出は学校のみで結構です。

【参考資料】
○「マスク等の着用が困難な状態にある児童生徒等の対応について」(厚生労働省)
○「発達障害小・中・高校等における 新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」(令和4年6月2日 飯塚市教育委員会)

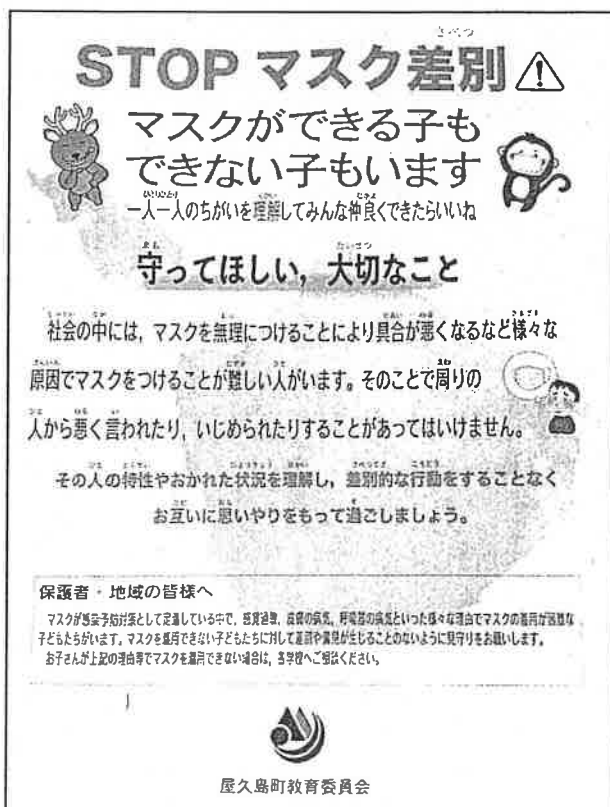
<飯塚市：マスクできない子の啓発>

<https://www.city.iizuka.lg.jp/ed-kyoikushido/documents/masukugadekinaikoinoiruyou.pdf>



<小平市：新型コロナウイルス感染症に関わるいじめや偏見、差別の未然防止等に向けたポスター>

<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/102/102152.html>



<屋久島町>



<実際の掲示風景>